

平成30年度高齢者保健事業推進研修報告

開催日：平成30年11月5日（月） 会場：群馬県公社総合ビル1階ホール

去る平成30年11月5日、県・市町村職員（後期・国保・健康増進・介護予防担当者等）や関係職等を対象とした研修会を実施しました。自治体内の関係部署同士の連携充実を図り、データに基づく効果的な事業推進の優先順位付けや、工夫、展開等ができるようにすることを目的とし、県内35市町村の職員を中心に、地域包括センター等の職員等207名が参加しました。

初めに、清水聖義広域連合長（太田市長）の挨拶から始まり、群馬県の実況について、広域連合から情報提供をさせていただきました。県内被保険者の健診受診状況や各種疾病の市町村別受診状況等について、国保や介護と関連づけ説明をさせていただきました。



挨拶する清水聖義広域連合長



広域連合からの情報提供

基調講演では、「地域特性を踏まえた高齢者保健事業の検討」と題し、武蔵野大学看護学部 中板育美教授を講師に迎え、保健事業を行うにあたっての連携・協働の必要性について、保健事業ガイドラインの解説も踏まえながら、ご講演をいただきました。

シンポジウムでは、「健康寿命の延伸に向けた庁内連携」と題し、群馬大学大学院保健学研究科 佐藤由美教授の進行で、群馬県庁の関係各課職員に各課の取組について紹介していただき、どのような連携ができるか、参加者を交えたディスカッションを行いました。

この研修会が、市町村の関係部署が連携体制を整えるきっかけになるよう、広域連合としても、引き続き支援するとともに、事業の推進に努めたいと考えています。



中板先生による基調講演



シンポジウムの様子